

高知県長期漁海況予報

平成20年下半期(8～12月)の漁況・海況の予想

平成20年9月発行 高知県水産試験場

このたび、平成20年8月から12月を予測期間とした「平成20年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

予報の概要

海況

黒潮：黒潮は、九州南東沖で離岸傾向で推移する。8～9月、四国沖では変動が大きく離接岸を繰り返すが、10～11月には潮岬以西全域で離岸傾向となる。
沿岸水温：「平年並み」～「高め」で推移する。

漁況

マイワシ： 前年を下回る
ウルメイワシ： 前年並から下回る
マアジ： 前年並から上回る
サバ類： 前年を下回る

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

海 況

【海況の経過（平成20年4月～7月）】

1. 黒潮

足摺岬沖では4月から5月上旬まで「接岸」、その後、離岸傾向を示し、6月下旬には「著しく離岸」しました。7月に入って、やや接岸したものの、その後は離岸傾向で推移しています。

室戸岬沖では、4月上旬から中旬にかけて「かなり離岸」、4月下旬から5月下旬まで「接岸」、その後、離岸傾向で推移しました。7月に入ると一転して接岸傾向となるも、7月下旬には「やや離岸」となっています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は接岸～著しく離岸で推移しました。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲（マイル）
接岸	<25
やや離岸	25 、 <45
かなり離岸	45 、 <65
著しく離岸	65

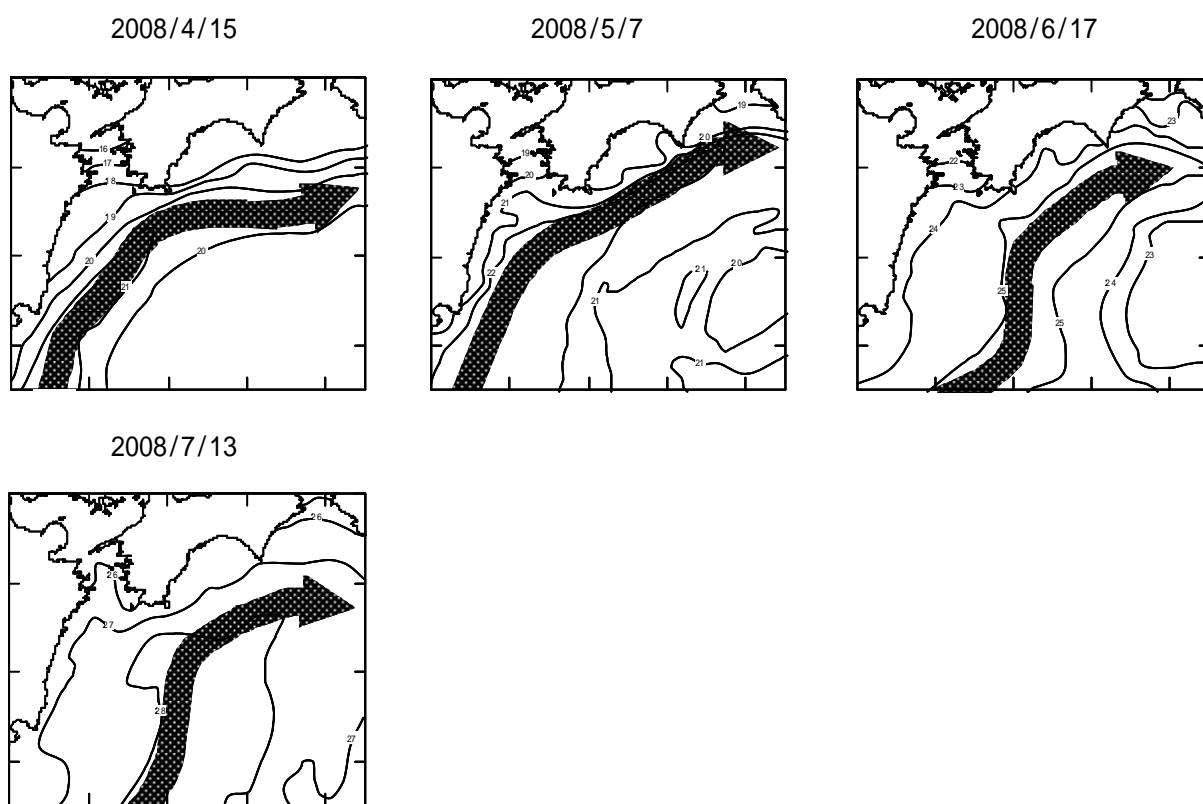


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

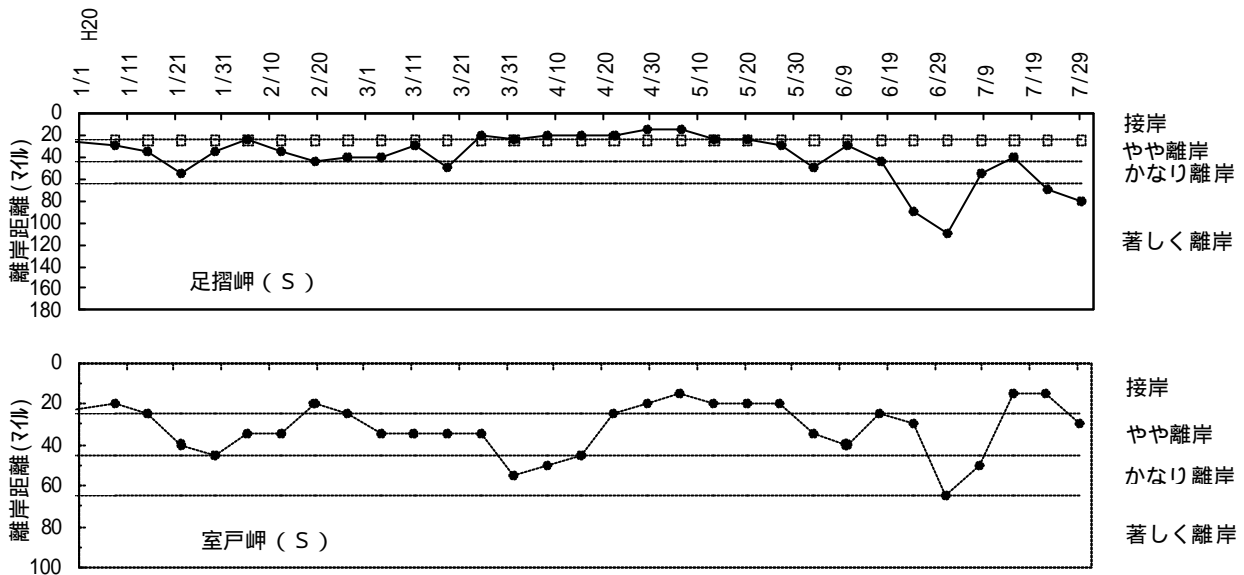


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

2. 沿岸水温

春期においては「やや低め」で推移しましたが、夏期に入ると「平年並み」で推移しました。月別にみると、4月は表層で「やや低め」、200m深で「かなり低め」であったほかは、「平年並み」でした。5月は、200m深で「かなり低め」であったほかは「平年並み」でした。6月は、50m深及び100m深で「やや高め」、200m深で「かなり高め」となりました。

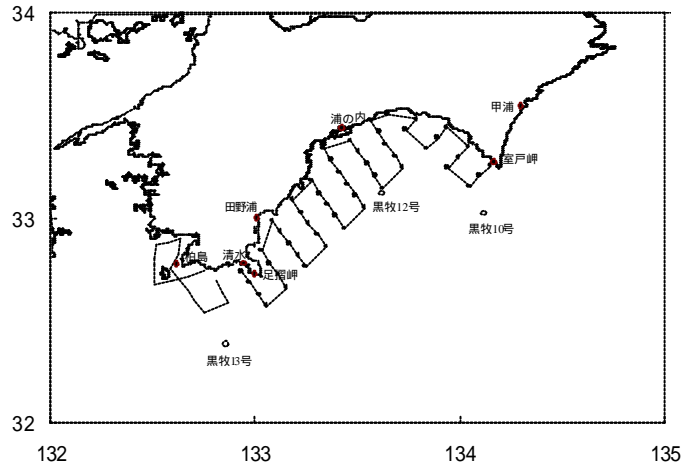


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成20年 4月	-	- +	- +	- -
平成20年 5月	- +	+ -	+ -	- -
平成20年 6月	- +	+	+	++

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+-	平年並み (+ 基調)	0.0~0.6
---	著しく低め	-2.2 以上
--	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
-+	平年並み (- 基調)	0.0~-0.6

3 . 特異現象

海況

- ・沿岸定線観測において、4月の200m層が過去6番目の低水温、5月の200m層が過去5番目の低水温であった。また、1月の100m層が過去2番目の高水温、2月の100m層が過去2番目の高水温、3月の50m層が過去4番目の高水温であった（1975年以降、欠測年あり）。

漁況

- ・ 1～2月、土佐湾でシラスが不漁（平年比3.3%）
- ・ 1月及び6月、足摺岬周辺の立縄によるゴマサバが不漁（1月：平年比17.8%、6月：平年比19.9%、両月とも同時期過去最低（1987～））
- ・ 2～3月、土佐湾東部に位置する加領郷の多鉤釣によるゴマサバが好漁（2月：平年比463.2%、3月：平年比367.5%）
- ・ 1月、宿毛湾における中型まき網によるマイワシが好漁（平年比1346.1%）
- ・ 3月、宿毛湾における中型まき網によるマアジが好漁（平年比440.4%）
- ・ 4月、宿毛湾における中型まき網によるウルメイワシが好漁（平年比548.5%、同時期過去最高（1983～））

【今後の見通し（平成20年8～12月）】

1. 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、8～11月にかけて変動が大きく、B型とC型流路を繰り返すが、12月以降、B型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、九州南東沖では離岸傾向で推移する見込みです。8～9月、四国沖では変動が大きく離接岸を繰り返すが、10月～11月には潮岬以西全域で離岸傾向となる見込みです。

これに伴い、日向灘～豊後水道外域～土佐湾では一時的に暖水が波及することがあると予想されます。

（根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

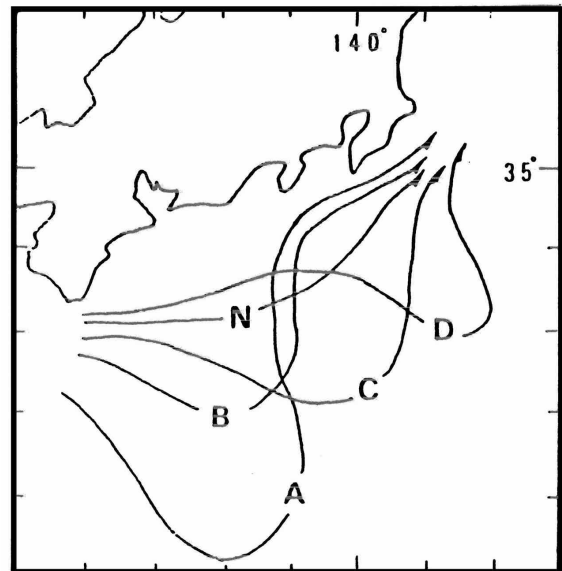


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

2 . 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

（根拠）

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」（6月25日発表、予報期間7～9月）によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

Ⅰ サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成 20 年 4～6 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 222.3 トン（以下、漁獲量は期間中の合計を示します）で、前年（673.0 トン）、平年（1,736.3 トン 以下、平年とは平成 9 年から平成 18 年の 10 年間の平均値を示します）を下回りました。まき網漁獲物の体長測定結果によると、魚種はゴマサバが主体でした。
- (2) 定置網（窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計）による漁獲量は 82.6 トンで、前年（53.7 トン）を上回り平年（115.9 トン）を下回りました。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の 2 漁場（椎名、高岡）の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。平成 11 年以降、県西部の定置網で実施しているさば類 0 才魚の入網尾数調査（3～6 月）では、ゴマサバは前年の 50 倍に増加、マサバは 1/2 に減少しました。
- (3) 釣（立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計）による漁獲量は 321.8 トンで、前年（236.0 トン）を上回り平年（345.1 トン）並みでした。魚体測定の結果では、漁獲の大半はゴマサバで前年同様 3 歳魚（平成 17 年生まれ）以上のものが大半を占めました。

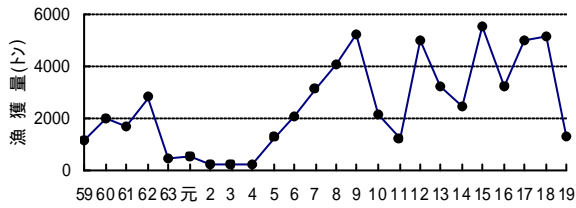


図 サバ類漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

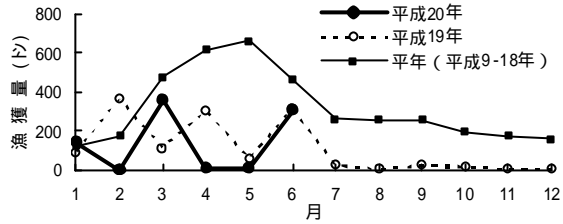


図 サバ類月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

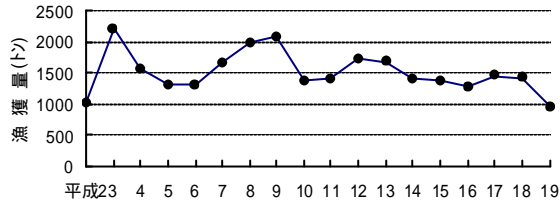


図 サバ類漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

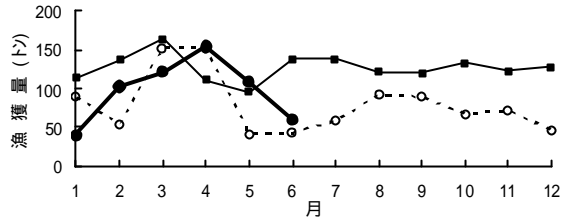


図 サバ類月別漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

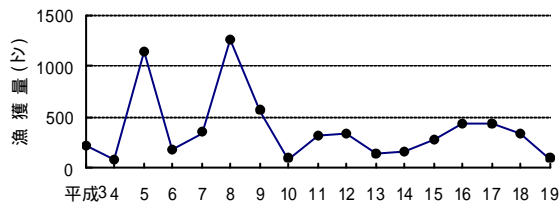


図 サバ類漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

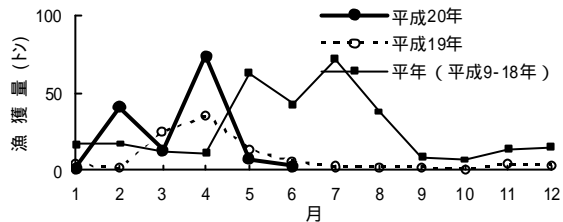


図 サバ類月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に2,253トンで、前年比25%、平年比39%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中部を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に25トンで前年比101%、平年比2%ときわめて低水準に推移しました。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による4～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に1,816.5トンで、前年比263%、平年比227%でした。熊野灘南部定置網の4～6月の総漁獲量は94.3トンで、前年比1,292%、平年比107%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

(1) 漁獲対象：1才魚(平成19年生まれ)、2才魚(平成18年生まれ)、3才魚(平成17年生まれ)

(2) 来遊水準：

- ・ゴマサバ：1、2才魚は前年を下回り 3才魚以上を含めた全体としても 前年を下回ると見られます。
- ・マサバ：1才魚、2才魚とも来遊量は前年を上回るものの、依然、低水準で推移する見込みです。

(参考)前年8～12月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網 43.1 トン

定置網 (窪津・加領郷・椎名合計) 10.8 トン

釣 (立縄・多鉤釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計) 366.6 トン

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の平成 20 年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されています。このうち資源水準の高かった 4 才魚の残存資源量は、依然、多いと推定されていますが、2, 3 才魚の資源水準は 4 才魚を大きく下回り、1 才魚（平成 19 年生まれ）は近年の平均と推定されています。従って、期間中のゴマサバ全体としての本県への来遊量は、前年を下回るものと考えられます。

マサバ：マサバ太平洋系群の平成 20 年の資源の水準は「低位」、動向は「横ばい」と評価されています。本県においても幼魚の来遊量調査等の結果から、2 才魚、1 才魚の期間中の本県への来遊量は前年並み、ないし上回るものと考えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

II マアジ

【漁況経過（平成 20 年 4～6 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 293.8 トンで、前年 (319.4 トン)、平年 (415.7 トン) を下回りました。銘柄別では、150g 以上の「アジ」が 177.9 トンで、前年 (313.6 トン) を下回り平年 (106.4 トン) を上回りました。150g 未満の銘柄「ゼンゴ」は 115.9 トンで、前年 (6.8 トン) を上回り平年 (309.3 トン) を下回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、0 歳魚を主体に漁獲されていたと思われます。
- (2) 定置網 (窪津・加領郷・椎名 3 水揚地合計) による漁獲量は 136.2 トンで、前年 (137.4 トン) 並みで平年 (260.2 トン) を下回りました。

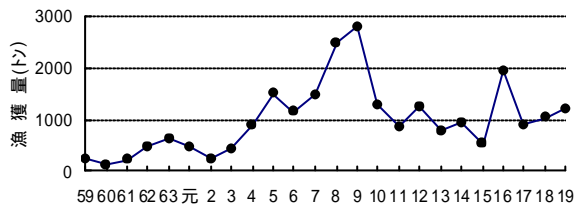


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

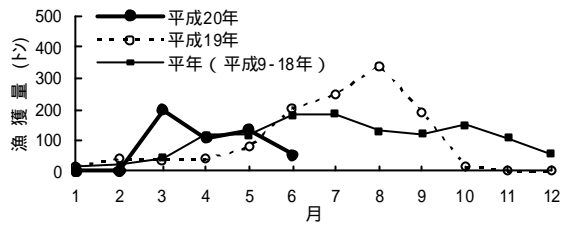


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

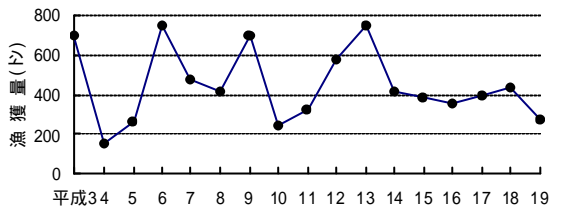


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

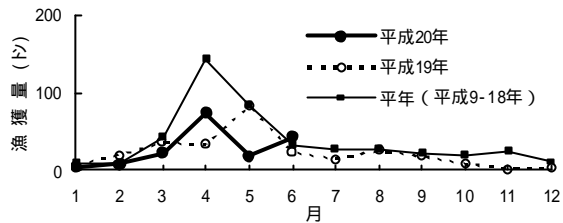


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は794トンで、前年比142%、平年比57%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は1,325トンで、前年比115%、平年比90%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による4～6月の漁獲量は、272.5トンで、前年比33%、平年比39%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成20年生まれ）1才魚（平成19年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年を上回る来遊と考えられます。

(参考)前年8～12月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 549.2 トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）56.8 トン

説明：

1才魚は前年をやや上回る来遊水準と考えられます。一方、本年春期からの0才魚の来遊水準が好調なため、全体では前年を上回ると考えられます。

III マイワシ

【漁況経過（平成20年4～6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は40.2トンで、前年(184.3トン)、平年を下回りました。漁獲は4月に集中していました。

(2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲量は3.2トンで、前年(29.0トン)、平年(58.9トン)を下回りました。漁獲の主体は0、1歳魚でした。

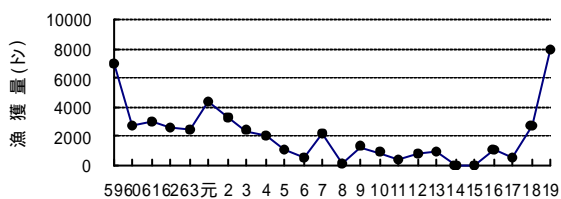


図 マイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

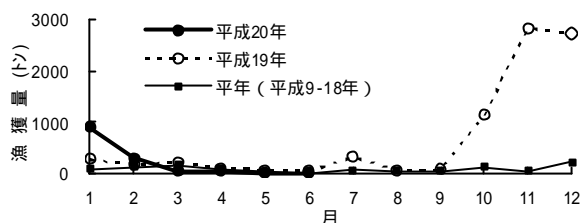


図 マイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

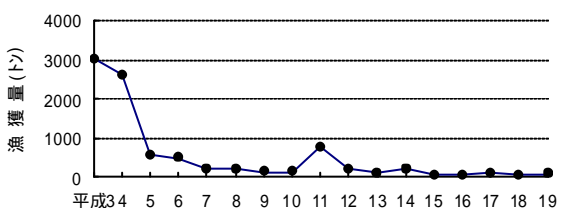


図 マイワシ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

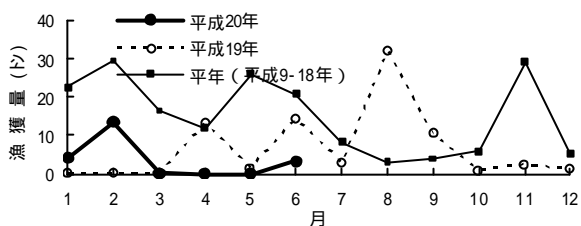


図 マイワシ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月における総漁獲量は526トンで、前年比20%、平年比71%でした。

愛媛県：豊後水道では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は152トンで、前年比13%、平年比9%でした。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網による4～6月の総漁獲量は4.2トンで、前年比7%、平年比2%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成20年生まれ）1才魚（平成19年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年を下回ると考えられます。

(参考)前年8～12月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 6,788.1 トン

定置網 (窪津・加領郷・椎名合計) 47.1 トン

説明：マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県海域における漁況経過などから、0才魚（平成20年生まれ）は一定の来遊水準にあると考えられますが、突発的な好漁となった前年下半期には及ばないものと考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成20年4～6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は124.7トンで、前年(90.6トン)を上回り、平年(94.9トン)を下回りました。銘柄別では幼魚「トロ」が47.9トンで、前年(68.6トン)、平年(120.8トン)を下回りました。未成年・成魚の銘柄「タレ」は76.8トンで、前年(22.0トン)を上回り、平年(274.0トン)を下回りました。

(2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3水揚地合計)による漁獲は54.7トンで、前年(20.9トン)、平年(49.4トン)を上回りました。

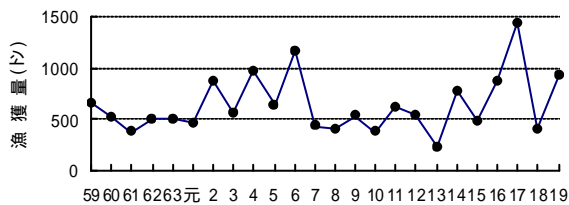


図 カタクチイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

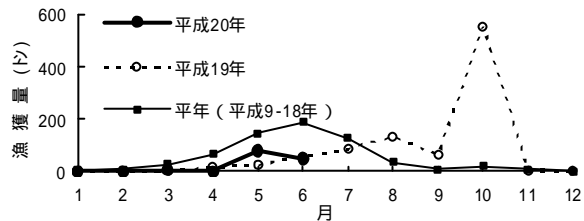


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

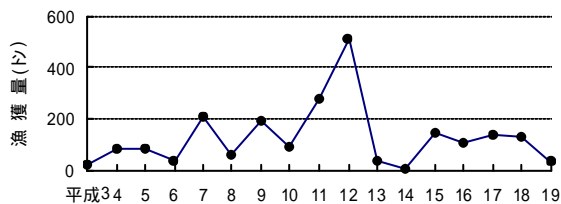


図 カタクチイワシ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

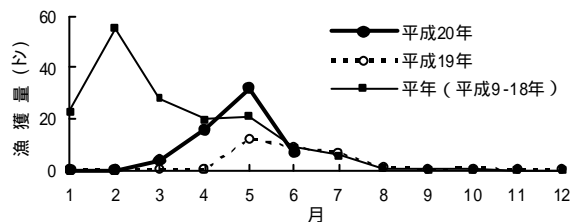


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は982トンで、前年比21%、平年比18%でした。

愛媛県：豊後水道では中部、南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は785トンで前年比57%、平年比106%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（平成 20 年 8～12 月）】

カタクチイワシの成魚は下半期の主たる漁獲対象ではないと考えられます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成 20 年 4～6 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 1,610.5 トンで、前年 (994.2 トン)、平年 (499.2 トン)を上回りました。体長測定から 1 才魚 (平成 19 年生まれ)を主体に漁獲していたと考えられる。
- (2) 定置網 (窪津・加領郷・椎名 3水揚地合計)による漁獲量は 29.2 トンで、前年 (44.9 トン)を下回り平年 (27.6 トン)並みでした。定置網入網調査から 1 歳魚 (2007 年級群)を主体に漁獲していたと考えられます。
- (3) 宇佐漁協の多鈎釣漁 (土佐湾中央部)による漁獲量は 5.1 トンで、前年 (14.3 トン)、平年 (14.8 トン)を下回りました。

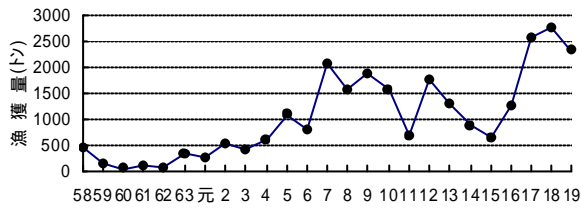


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

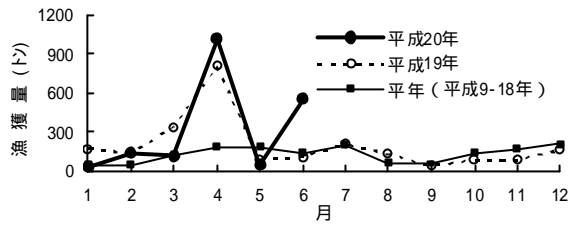


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

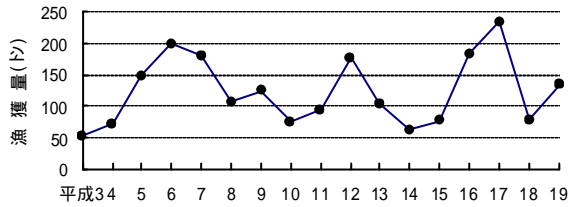


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（定置網・加領郷・椎名：大型定置網）

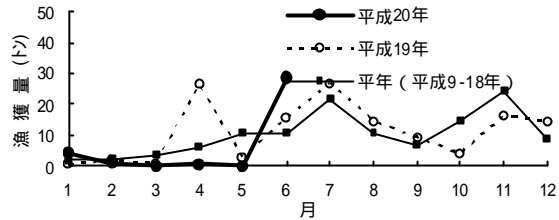


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（定置網・加領郷・椎名：大型定置網）

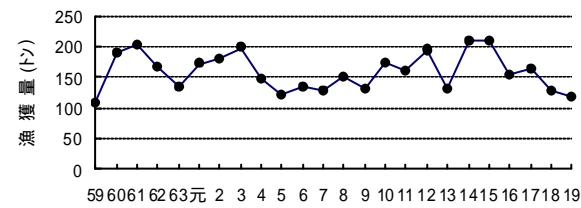


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

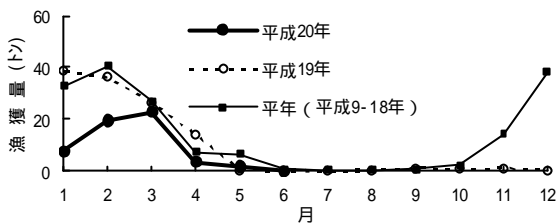


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は2,135トンで、前年同期比80%、平年比118%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は273トンで、前年比23%、平年比59%でした。

和歌山県：串本・南部町漁協の1そうまき網では、総漁獲量が277トンで、前年比561%、平年比302%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚（平成20年生まれ）主体に1才魚（平成19年生まれ）が混じる。
- (2) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

（参考）前年8～12月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 489.2 トン

定置網（窪津・加領郷・椎名合計）59.0 トン

多鈎釣漁（宇佐漁協）：3.1 トン

説明：

ウルメイワシの資源水準の指標となる産卵量は、土佐湾を中心として高水準にあり、資源状態は良いと判断できます。しかし、近隣県も含めた上半期の漁況経過から、今後の主体となる0才魚（平成20年生まれ）の来遊状況が悪いと考えられることから、高水準にはあるものの前年を下回る来遊と考えられます。

VI シラス

【漁況経過（平成20年4～6月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦7水揚地合計）による漁獲量は158.3トシで、前年（22.8トシ）を下回り、平年（149.2トシ）並みでした。魚種組成は、3月はマイワシ主体、4月以降はカタクチイワシが主体でした。

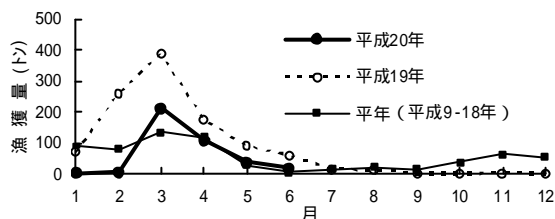
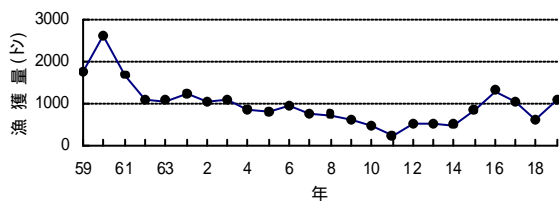


図 シラス漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協） 図 シラス月別漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）

2 周辺各県の経過

宮崎県：1～6月の総漁獲量は621トシで、前年比47%、平年比45%でした。

大分県：佐伯湾における4～6月の漁獲量は18トシで、前年比26%、平年比20%でした。

徳島県：紀伊水道内における4～6月の漁獲量は232トシで、前年比57%、平年比16%でした。

【漁況予測（平成20年8～12月）】

本県の下半期シラス漁獲量は、主に11、12月の漁況に大きく左右されるため、現時点では予測することが困難です。